

令和7年度 都城市立中霧島小学校 学校評価

教育目標：ふるさとを愛し、人間力あふれる児童の育成

4：期待を上回る（90%以上） 3：期待どおり（89%～70%） 2：期待をやや下回る（69%～50%） 1：改善を要する（49%以下）

	評価項目	取組内容	評価結果(アンケート)			自己評価	自己評価コメント	学校運営委員評定	学校関係者評価コメント	
			教職員	児童	保護者					
自分のよさや可能性を伸ばす	授業改善を通じた学力向上	・児童主体の授業づくり	3	4	3	3.3	【成果】 ◎ ICTの活用の推進 授業及び家庭学習においてタブレット端末の活用が日常化した。児童からも「タブレットを使った学習ができるようになった」と答えた児童は93%に達し、児童も一人一台端末を文房具のように学習に使っている。教職員も、ICTを積極的に活用した授業づくりを研究したことで、ICT活用や基本操作の理解が進んだと答えた職員は100%に達した。 ◎ 体力向上の取組 学校では、熱中症対策などで昼休み外で遊べないことが多かったが、体を動かすことが好きな児童が多く、昼休みはたくさんの児童が外で遊んでいる。体力テストの結果は、ほぼ県平均と同じで各学年、種目別でもバランスの良いスコアだった。体育の授業も77%以上の児童が楽しいと感じているため、楽しく体力向上が図られていたことが分かる。 【課題】 ● 読み解く力や判断力・表現力の育成 読み解く力や判断力・表現力の育成に関しては、教職員は2.4と低い点数であったが、児童は3.5と高く評価している。これは、児童が「先生は分からないことが分かるように教えてくれますか」という問いに94%以上の児童がその通りだと答えていることからすると、児童は授業や先生の教えに満足していることが分かる。しかし、教職員が目指す点数はとれておらず、もっと高めていけると考えられる。	3.6	【ICTの活用と読書への影響】 ICTの活用については、児童・教職員ともに習熟度が高く、積極的に取り組まれている。 昨年度は読書量の低下が見られたが、ICTを上手に活用することで、個人に合わせた読書体験を増やし、学力向上に繋げることが期待している。一方で、メディアの影響による読書離れや、それに伴う読解力・判断力・表現力の低下を懸念している。 【学習指導とメタ認知の育成】 授業や先生の教え方に対しては、94%以上の児童が満足しているという非常に高い評価をしている。先生方の創意工夫や熱心な指導も評価されているが、学年が上がるにつれて広がる算数の学力差への対応や、児童が「自分の分からない箇所」を自覚するメタ認知能力の育成が課題である。 【家庭でのメディアコントロールと啓発】 スマホやタブレットの利用に関する「メディアコントロール」は、家庭間での格差が大きい。トラブル防止のためのPTAによる啓発や、使用時間・姿勢などの家庭内ルールの確立、そして学校からの保護者に対する強い働きかけが必要。 【体力向上と健康管理】 熱中症対策による運動制限という制約がありながらも、身体を動かす機会の確保が求められています。また、ICT機器の利用が増える中で、視力の低下や姿勢の悪化を防ぐための配慮も重要な視点として示されています。 【実体験を通じた基礎能力の形成】 児童の判断力や表現力を養うためには、机上の学習だけでなく、乳幼児期からの遊びや実体験が不可欠である。実体験に基づく想像力が、学校での学びを深める基礎になると考える。	
		・読み解く力や判断力・表現力の育成	2	4	3					
		・習熟を図る時間の確保	3							
		・ICT活用の推進	4	4						
	非認知能力の育成	・基本的な生活習慣の徹底	3	3	3	3	【課題】 ● 読み解く力や判断力・表現力の育成 読み解く力や判断力・表現力の育成に関しては、教職員は2.4と低い点数であったが、児童は3.5と高く評価している。これは、児童が「先生は分からないことが分かるように教えてくれますか」という問いに94%以上の児童がその通りだと答えていることからすると、児童は授業や先生の教えに満足していることが分かる。しかし、教職員が目指す点数はとれておらず、もっと高めていけると考えられる。	3.6	【家庭でのメディアコントロールと啓発】 スマホやタブレットの利用に関する「メディアコントロール」は、家庭間での格差が大きい。トラブル防止のためのPTAによる啓発や、使用時間・姿勢などの家庭内ルールの確立、そして学校からの保護者に対する強い働きかけが必要。	
		・基本的な学習習慣の徹底	3	3	3					
	健やかな体の育成	・運動量の確保と体力向上の取組	3	3	4	3.3	3.3	● 適切なメディアコントロール ICT活用は進んだものの、家庭でのメディアとの正しい関わり方ができているかについては2.8と保護者は低い点数をつけている。メディアコントロールについての指導を学校から家庭への啓発を続けていかなければいけない。また、職員もこの項目については、2.5と低い点数をつけているので、学校でも技術指導とモラル指導のバランスについて今後検討をしていく。	3.6	【体力向上と健康管理】 熱中症対策による運動制限という制約がありながらも、身体を動かす機会の確保が求められています。また、ICT機器の利用が増える中で、視力の低下や姿勢の悪化を防ぐための配慮も重要な視点として示されています。 【実体験を通じた基礎能力の形成】 児童の判断力や表現力を養うためには、机上の学習だけでなく、乳幼児期からの遊びや実体験が不可欠である。実体験に基づく想像力が、学校での学びを深める基礎になると考える。
	健康・安全な生活習慣の育成	・運動、栄養、休養の意識化（栄養）	3	3	3					
		・運動、栄養、休養の意識化（休養）		4	3					
		・適切なメディアコントロール	3	4	3					
他者を尊重し協働する	特別支援教育の充実	・ニーズの把握と支援や指導の充実	3	4		3.5	【成果】 ◎ ニーズの把握と支援や指導の充実 「先生は、分からないことが分かるように教えてくれますか」という問いに94%以上の児童が肯定的に答えており、本校の教職員が児童の実態を把握し、その子にあった指導や支援を行っていることがよく分かる。 学校に来れない児童、学級に行けない児童、個別支援が必要な児童等様々な事情を抱えた子どもたちがいたが、別室登校、取り出し授業、保健室登校、meetでの授業など児童や保護者のニーズに答える形で学校全体で取り組むことができた。 【課題】 ● 無言清掃の徹底 異学年集団で活動することは、好きであると肯定的に考える児童が多いが、清掃活動になると私語が多く、無言清掃の徹底がなかなかできていないと感じている教職員が多い。また、高学年の児童が手本となっていない清掃場所もあり、指導は継続して行う必要がある。 ● 基本的な生活習慣の定着 学校のきまりの徹底について職員は2.6と低い評価を行っている。また、児童と保護者は言葉遣いに関しては、できていないと答えている率が高い。保護者に関しては、後始末について課題があると考えている方も多い。きまりについて、再度指導を行い、PTAとも連携をしPTAの努力事項として取り組んでいきたい。	3.5	【児童の自己評価と安心感】 児童の自己評価は高く、学校生活を安心して過ごしている様子がうかがえる。こうした肯定的な評価の背景には、先生方の熱心な指導があると考えらる。 【個別支援の充実と教師への信頼】 多様な背景を持つ児童や保護者に対し、一人ひとりに合わせた丁寧な個別支援が行われていることがすばらしい。学校に来ることが難しい児童や個別支援が必要なケースへの対応は困難を伴うが、その取組への感謝と期待をしている。 【家庭・地域との連携と課題】 学校のきまりの徹底には家庭のしつけが大きく関わっており、家庭の教育力低下が懸念される。また、個別の課題に対しては、保護者と連携して進級・進学後を見据えた対応をすることで、高学年や中学校での不登校を防ぐことができるのではと考える。 【良好な習慣と地域ボランティアの貢献】 朝の登校時の清掃活動や見守りといったボランティア活動と、児童のしっかりとした挨拶や清掃の習慣が継続されている。これらの活動は、他者を尊重し協働する姿勢を育むことにつながると考える。	
	基本的な生活習慣の定着	・中小小い子のきまりの徹底	3	4	3	3.3				
		・4つの「あ」の常時意識化	3	4	3					
	体験活動の充実	・道徳の時間の充実	3	4		3.5				
		・異年齢集団での活動充実	3	4						
	子どもの魅力ある居場所の確保	・子どもの居場所づくり	3	4	3	3.3				
		・自他の人権の尊重								
	よりよい集団づくりの推進	・集団のルール、マナーの体得	3	4		3.5				
環境教育の推進	・無言清掃の徹底	3	3		3					
地域や社会と関わる	環境教育の推進	・ボランティア活動の推進	2	3		2.5	3.8	【開かれた学校づくりと地域連携】 人的支援を通じた地域住民との交流や活動が盛んに行われており、「開かれた学校」としての姿勢が強く感じることが出来る。教育活動において地域や社会との繋がりが非常に多く、学校と地域の結びつきが深まっている。 【伝統芸能を通じた活動の広がり】 伝統芸能である「谷頭相撲甚句踊り」の村祭りへの参加や、「山之口弥五郎旦那祭り」への出演など、地域文化に根ざした活動が幅広く展開されていて、すばらしい。 【体験学習による教育的効果】 多様な体験学習は、子供同士の協調性を養うだけでなく、地域の人々と交流する貴重な場となっている。こうした交流の機会は、今後も継続してほしい。 【地域住民による支援と相互の喜び】 地域住民は学校への協力を惜しまない姿勢を持っている。実際にサポートを経験した人からは「子供たちから元気をもらえる」「楽しい」といった前向きな意見が寄せられているので、今後も学校と地域が活動を共有していきたい。		
	積極的な地域資源の活用	・地域素材人材を生かした教育活動		4		3.3				
	地域への貢献	・地域行事への積極的な参加	3	4		3.3				